

## 入選

### 夏まつりのボランティアを体験して

岡山県 味野中学校

2年 青木陽生

「今年の夏まつりのボランティアに行ってみる？」

とお母さんに聞かれた。僕は「去年も楽しかったし、行こうかな。」と思って、お母さんに「行く。」と答えた。

8月6日、僕は特別養護老人ホームの「夏ボラ」に行った。去年は、ボーリングの手伝いをしたが、今年もボーリングの手伝いをすることになった。僕のほかに、中学生が3人いた。僕以外の3人は初めての参加だったので、まずは職員とロールプレイングをした。

職員が「片方の手が、動かない人だったらどうする？」とか「こっちの伝えていることがわからなかったり、うまく伝わらなかったりしたらどうする？」などと、様々なパターンを言ってきて、それらに合わせてどう接するか、僕たち4人で考えて意見を出してみた。

「手が動かない人は、いっしょにしてあげる」、「耳が聞こえない人には、ジェスチャーをして伝えてみる」という意見が出て、おじいちゃん役の職員に向けてやってみた。その後、おじいちゃん、おばあちゃんに向けて実際にやってみた。

最初は緊張して、ルール説明の声が小さくて聞こえなかったりしたため、僕が笑顔になることも少なかった。でも、だんだんとおばあちゃんたちが笑ってくれて、僕たちが伝えたいことが伝わり、いっしょにボールを投げたり、少しだけボーリングのピンを倒す手伝いをしたりすることで、その場の全員が笑顔になっていた。

「親切」という言葉の意味を調べてみると「困ったり、求めを持っていたりする人に対してささやかな手助けをすること。」と書いてあった。困っていることやその人ができないことを見つけ、少しだけ手伝ってあげたり、わかりやすいようにジェスチャーをして伝えてあげたり、笑わせてあげたりすることが大切だと僕は思った。

僕は、去年よりも今年の方が上手におじいちゃん、おばあちゃんと話せたと思う。他のボランティアの中学生たちも自分も、夏まつりが終わったときに「楽しかった。また来たい。」と話をしていた。

「親切にしよう」という気持ちを持つことは、大事だと思う。僕はボランティアに行き「相手に笑って楽しんでもらうには、自分も笑って楽しんでいよう。」と思った。次にボランティアに行くときにも、笑顔で接してみようと思う。

みんなが笑って過ごすことができたなら、みんなが優しい気持ちになれるのではないかと、思ったからだ。